

CONTENTS

新館開館 10 周年記念企画展	
シーボルトと岡山の洋学者たち	2
友の会のページ 植栽整備・拓本を楽しむ・史跡見学会	3
冬季企画展 仁木永祐と羽山翼をめぐる人々	4
資料館展示品から	5
NEWS FILE	6
一周忌を迎えて 山本博文先生を偲ぶ	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 27

March, 2021



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

麻酔を使って乳がんの摘出手術を成功させ、一世を風靡した紀州の華岡青洲。その青洲を開祖とする華岡塾に1871(明治4)年3月10日入門したのが作州勝田郡美野村の鷹取一郎です。鷹取家は代々この地の医家で、初代は祖父寿民、2代が父文哉、そして3代一郎、4代日夫と続いたのですが、1937(昭和12)年に日夫の長男麟太郎が病によって早世したため医業は絶えてしまいました。病院はすでに取り壊されていますが、ここに佇んでいると往時の医家の暮らしが目に浮かんでくるようです。

(勝田郡勝央町美野) 文・写真：名誉館長 下山純正



新館開館10周年記念企画展

シーボルトと岡山の洋学者たち

■会期：令和2年10月10日（土）～11月8日（日）

令和2年で、当館が新館へ移転してから10年を迎えました。この節目の年にあたり、洋学の発展に大きな功績を残したシーボルトの生涯と、シーボルトと交流した岡山ゆかりの洋学者たちについて紹介する記念企画展を開催しました。

シーボルトは、1796年にヴュルツブルク（現在のドイツ）に生まれ、1823（文政6）年に長崎出島のオランダ商館医として来日しました。日本研究という任務を命じられていたシーボルトは、いわゆる「鎖国」下の制限された状況の中でも積極的に日本人との交渉を はかり、長崎郊外に鳴滝塾を開いて門人を育て、江戸参府などの機会を利用して各地の洋学者と交流。自身の研究を進めると同時に、日本人に西洋の知識を伝えました。

現在の岡山県域からは、真島郡旦土村（現在の真庭市旦土）出身で のちに勝山藩医となった石井宗謙、岡山藩家老伊木家の侍医の児玉 順藏、久米北条郡境村（現在の美咲町境）出身でのちに足守藩医とな る石坂桑亀の三人が、長崎へ赴いて鳴滝塾に入門しました。

また、津山藩医の宇田川榕菴と箕作阮甫は、江戸参府中のシーボル トを長崎屋に訪ねました。榕菴は、シーボルトに多くの植物画や標本 を贈り、それらはシーボルトの日本研究に生かされたのでした。

洋学者たちは、シーボルトから得た知識を自身の医療や洋学研究に 生かし、さらに彼らの教えを受けた弟子たちもまた、医学をはじめ様々 な分野で幕末から明治期にかけて活躍していくことになりました。

観覧された方々からは、新しい知識を求めた洋学者たちの探求心の 強さに感嘆する声が多く寄せられました。

最後になりましたが、コロナ禍の中、貴重な資料のご出展をはじめ、本 展の開催にご尽力いただきました関係各位に、心よりお礼申し上げます。

友の会の活動

コロナ禍のため、友の会は春から初夏に開催を予定していた総会と 研修バス旅行を中止にしました。感染対策をしつつ、秋から諸行事を 再開し、久々の活動を喜ぶ声が寄せられました。

友の会有志による

植栽整備ボランティア活動

友の会では、一昨年から年に 2～3回、有志による洋学資料 館の菓草の小径や中庭の植栽整 備活動を行っています。今年度は、10月31日（土）に 1回目の活動を行いました。屋 外ですが、マスクを着用し、ソー シャルディスタンスも確保して の作業となりました。伸びすぎ た樹木の剪定や草取りを行い、 終了後はすっきりきれいになり ました。



拓本を楽しむ

11月8日（日）には、初の試 みとなる企画イベント「拓本を 楽しむ」を開催しました。

拓本とは、石碑や器物などに 刻まれた文字や文様を、墨で紙 に写し取ることで、下山純正名譽 館長が講師となり、最初に図書 室で手順を説明、墨を付けるた めのたんぽを作成し、それから 眞作家墓所まで移動して墓碑の 文字を写し取りました。文字が きれいに写し出されると、歓声 があがっていました。



第33回友の会史跡見学会

津山城下の史跡を訪ねて（城東編）

12月6日（日）第33回史跡見 学会を実施しました。今回は新 型コロナウイルス感染防止のた め、バスは利用せず、徒歩で資 料館周辺の史跡を巡りました。

最初に訪ねたのは、松本山千 光寺です。ご住職早川石峯さん のご案内で、野間栄齋と渡邊貞 順の墓所にお参りしました。二 人は、津山藩医の家に生まれ、 ともに大坂中之島の医塾合水堂 で学んだ華岡門人です。それか ら、境内の中を移動し、樽や檜 の形をした珍しい墓所の 説明もしていただき ました。

次に證誠山大信寺を 訪ね、明治屋創業者の磯 野計が建立した磯野氏 先祖累代之墓と、太田家 先祖代々之墓にお参り しました。ここでは、下 山純正名譽館長に若き 日の計と祖父太田耕翁 の逸話を語っていただ



大信寺でマスクをとって記念撮影

き、往時に思いを馳せました。

その後、津田真道生家跡、植 原六郎左衛門屋敷跡、川村三兄 弟生家跡、箕作阮甫旧宅を見学 し、最後に眞作家墓所へ向いま した。帰着後は、ほどよい疲労 感と空腹感で、コロナ対策によ る昼食中止が悔やまれました。 最後に、快く受け入れてくだ さった両寺院のご住職にお礼申 し上げます。ありがとうございました。



冬季企画展
仁木永祐と粕山巒をめぐる人々

■会期：令和2年11月28日(土)～令和3年2月21日(日)

津山藩医で洋学者の箕作阮甫・宇田川興齋に学んだ医師 仁木永祐は、1830(文政13)年に美作国東北条郡下津川村(現在の津山市加茂町下津川)の中庄屋豊田伊兵衛の四男として生まれました。昨年、生誕190年を迎えたのを記念し、企画展を開催しました。

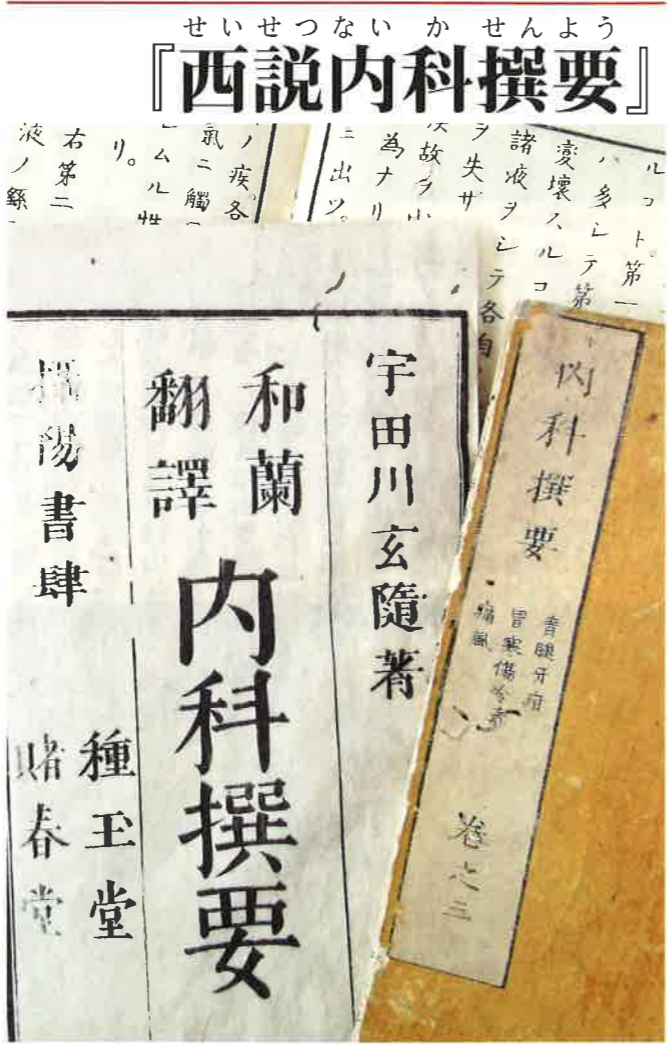
永祐は江戸や大坂へ遊学して洋学と漢学を学び、東南条郡粕山村(現在の津山市粕保)の医師 仁木隆助の養子となって地域医療に尽力しました。1860(万延元)年には、隆助らと共に藩の許可を得て郷校 粕山巒を創設します。粕山巒には、近郷から多くの入門者が集まり、主に儒学や医学の教育が行われました。13年の歴史の中で300人以上が巣立っていき、その中には、のちに津山貯蓄銀行取締役に就く安黒基、衆議院議員に選ばれる井手毛三、苫田郡医師会会長を務める中島大次郎、新聞記者となる春名高義、麒麟麦酒創業者に名を連ねる米井源治郎ら、明治の世を担う人材がいました。

明治時代には、新政府の指示により、新たに開校した小学校の教師や校長となります。また、自由民権運動にも参加して「美作の板垣退助」と呼ばれたほか、地域の人々のためにその手腕を振るい、溜池の所有権を民有に戻す運動や吉井川の改修、津山中学校の設立経費問題、山陰山陽連絡鉄道の敷設問題などに奔走しました。

郷土の先人を紹介した企画展ということで反響も大きく、来館者の皆さまからは、「地域の発展に生涯をささげた永祐の生き方に感動した」というご感想や、「これからもこういった人を取り上げてもらいたい」といったご意見が寄せられました。

企画展に貴重な資料をご出展いただきました仁木家の皆さまをはじめ、ご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

資料館展示品から
日本で最初に出版された
西洋内科の翻訳書



ヨハネス・デ・ゴルテル肖像画
1689～1762 (石田家資料)

これは、日本で初めて刊行された西洋内科医学書の翻訳書です。江戸詰の津山藩医宇田川玄隨が、10年もの歳月を費やしてオランダ人医師ヨハネス・デ・ゴルテルの著書『簡明内科書』(1744年刊)を漢字仮名交じり文にして翻訳しました。

病気を体の部位によって全身・頭部・頸部・胸部・腹部・泌尿系・皮膚の7項目に分類し、病症の定義・原因・鑑別・結果・治療法を記しています。内科書ですが、皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科、産婦人科などの疾患も含んでおり、55種類の病気に関する手引書となっています。

このように多様な疾病について解説している理由は、ゴルテルの原書を見れば理解できます。その表題で、海戦や野戦に従軍した際などに、外科医が内科の疾病を取り扱う必要が生じたときに読む本であることが説明されています。

訳稿は『西説内科撰要』と題され、3巻ずつ6回に分けて全18巻が刊行されました。出版事業は、1793(寛政5)年から1810(文化7)年までで、実に18年にも及んでいます。初出版のとき、藩主の松平康哉は、「草創の著述物」(新しい著作)を成したことを「御家光の御筋」(松平家の家名を

上げること)にもなると称賛し、出版資金の工面に苦勞していた玄隨に御手当金15両を下賜しました。藩主の賞与は刊行の後押しとなりましたが、刊行途中に惜しくも玄隨は43歳で急死し、その後は養子の玄真が出版を引き継いでいます。

さらに板木の転売も起こり、板元が当初の江戸の須原屋から、大坂の紀伊国屋、次いで河内屋へと移っていき、その地で完結を迎えたのでした。どうか無事に全ての巻が世に出たことで、亡き玄隨もほっと一安心したことでしょう。

文：学芸員 近都兼司

NEWS FILE

学校の団体見学続々、
展示解説を再開しました

昨年6月に新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館から再開してからは、感染対策として職員による展示解説を中止していましたが、秋頃から学校の団体見学が多くなったのに合わせ、解説も再開しています。

展示室やホールが密にならないよう少人数にグループ分けして見学してもらい、解説もなるべく簡易にするなど、ご不便をおかけしていますが、好奇心いっぱいの子で資料を見る子どもたちの姿に職員も元気づけられています。



オムニバス講演会開催
「病に向き合う医師たち」

1月31日(日)、10回目となるオムニバス講演会を開催しました。今回は、このコロナ禍の中で、歴史から何か学ぶことができれば、との思いで「病に向き合う医師たち」をメインテーマにしました。そして、コレラが伝来

し感染が拡大する中で、西洋の医学書から治療法を学ぼうと翻訳に励んだ洋学者たちを紹介した「江戸時代のコレラ騒動」(近都)、天然痘予防の牛痘種痘の普及に尽力した津山藩の医師たちの活動を紹介した「津山藩の種痘・興斎の記録から」(田中)、医師同士でやり取りしている手紙から、藩医とはどんな仕事をしてきたのかを紹介した「姫様・御子様方の病氣治療・津山藩医の手紙から」(小島)という3つの個別テーマでご報告しました。

今年度前半の行事はほとんど中止となってしまった



ため、講演会の開催は約1年ぶりでした。感染対策として定員を40名に限定したため、参加いただくことができなかった方も多くいらっしゃったのが残念でしたが、参加された方々は終始熱心に聴講され、外出自粛の中で久々に再会できたことを喜ぶ声もあちこちで聞かれました。

オンラインでの
授業や講座に出講

大人数の講演会や長距離の移動が難しくなっている中、代替としてオンラインを活用した授業や講座が学校などで実施されるようになりました。資料館職員も機材の取り扱いに四苦八苦しながらオンライン対応に取り組んでいます。

12月10日(木)には岡山大学教育学部地域教育プログラムのフィールドワークで、大学と資料館をZoomでつないで、小島館長が学生からの質問に答えました。津山のご当地検定「つやま検定」の研修会(津山検定実行委員会主催)も、毎年津山商業高等学校を会場に対面式で開催していましたが、今年はインターネット公開となりました。館長の講演の様子を収録し、期間を限定してYouTubeで公開されました。

2月14日(日)には、大垣市教育委員会の「おおがき先賢大学」で、岐阜県大垣市の会場と資料館をZoomでつなぎ、学芸員が「宇田川榕菴の生涯と業績」をテーマにお話をしました。

特別寄稿

一周忌を迎えて

山本博文先生を偲ぶ

津山洋学資料館名誉館長 下山純正



津山市出身で、東京大学史料編纂所教授だった山本博文先生が、令和2年3月29日に突然63歳で亡くなつてから早一年が経つてしまいました。ご実家のある上之町の家並みのあちらこちらに、今年も桜の花が咲き始めています。

初めて先生と出会ったのは、平成11年にパレスホテル東京で開かれた「作州の集い」でした。「帰省したとき、洋学資料館(旧館)には何度か見学に行きましたよ」と、話さ

れていたことを覚えています。山本先生と洋学資料館との関わりは、新館がオープンした平成22年に、津山市で開催された第25回国文化祭洋学シンポジウ

ムのパネラーとして、竹内誠先生、大石学道史先生をお招きしたことから始まりです。その翌年には、初保の仁木家から発見された赤穂浪士茅野和助書簡の鑑定をお願いするため、東京大学の史料編纂所を訪ね意見交換したこともありました。また、平成24・26年には、上廣倫理財団歴史文化フォーラムでの基調講演や対談をお願いしたり、さらには自宅に招いて歴史談義をするなど、これまで公私にわたつてご教示をいただきました。

先生のご専門は近世政治史や近世武士の研究で、『大日本近世史料 広橋兼胤公武御用日記』『細川家史料』『島津家文書目録』『美濃加納永井家史料』などの多くの史料編纂に携わられています。

また、『信長の血統』『東京今昔江戸散歩』『関ヶ原』の決算書』『格差と序列の日本史』『日曜日の歴史』『歴史をつかむ技法』『こんなに変わった歴史教科書』『お殿様たちの出世 江戸幕府老中への道』『日本の歴史角川まんが学習シリーズ』など、硬軟織

り交せて百冊以上の著作を、年に数冊という驚異的なペースで出版されました。

さらに、「英雄たちの選択」歴史秘話ヒストリア「知恵泉」NHK高校講座日本史」など、テレビやラジオ番組にも多数出演して、歴史解説や時代劇の時代考証に務めるという、八面六臂の活躍をされていました。亡くなる2カ月程前の2月1日、広島県三次市の市民ホールで、先生が講演されると聞き、出かけることになりました。著書『忠臣蔵の決算書』が、令和元年に映画「決算! 忠臣蔵」として公開されたのに伴うお話でしたが、映画撮影時のエピソードを交えて、実に楽しそうに話しておられたのが印象的でした。

講演前に時間をいただき、秋のフォーラムで山本先生、岩下先生に私も加えていただき鼎談をする予定だったため、その打合せを済ませ、「秋にお目にかかれるのを楽しみにしています」と伝え、お別れしたのが最後になってしまいました。

温厚実直な人柄と多くの研究者から慕われ、歴史学者として大成され、これから益々円熟される前の突然のご逝去は、残念無念の一言に尽きます。

先生の新聞が出る時、ご母堂は自ら洋学資料館まで足を運び寄贈して下さいました。その光景を思い出すと、また得も言われぬ悲しみがこみ上げてしまうのです。

INFORMATION

令和3年度の催し物(予定)

企画展

4月	<p>■ 企画展「資料が秘めた物語Ⅲ —洋学者がみた西洋文化—」 (休館日：12・19・26・30日)</p>	3/13~ 資料が秘めた物語Ⅲ 洋学者がみた西洋文化 ~6/13
5月	<p>■ 15 友の会講演会・総会 (休館日：6・7・10・17・24・31日)</p>	
6月	<p>(休館日：7・14・21・28日)</p>	
7月	<p>■ 企画展「これも薬あれも薬(仮)」 ■ 31 親子でヒンデローペンの作品づくり (休館日：5・12・19・26・27日)</p>	7/3~ これも薬あれも薬(仮)
8月	<p>■ 1 ヒンデローペン絵付け体験教室 ■ 1 ヒンデローペンシンポジウム ■ 江戸時代の化学書からの再現実験教室 ■ 自分だけの「解体新書」を作ろう (休館日：2・10・11・16・23・30日)</p>	
9月	<p>(休館日：6・13・21・22・24・27日)</p>	~9/20
10月	<p>■ 企画展「箕作省吾生誕200年記念 蘭学者が描いた世界地図(仮)」 (休館日：4・11・18・25日)</p>	10/9~ 蘭学者が描いた世界地図(仮) ~11/7
11月	<p>■ 企画展「生誕200年記念 宇田川興斎(仮)」 ■ 友の会史跡見学会 (休館日：1・4・8・15・22・24・29日)</p>	
12月	<p>(休館日：6・13・20・27・29~31日)</p>	11/27~ 生誕200年記念 宇田川興斎(仮) ~2/20
1月	<p>■ 30 職員による研究報告会 (休館日：1~3・11・12・17・24・31日)</p>	
2月	<p>(休館日：7・14・15・21・24・28日)</p>	
3月	<p>(休館日：7・14・22・23・28日)</p>	

■ 企画展 ■ 催し物 ■ 講演会 ■ 友の会

※新型コロナウイルス感染症の影響により、催し物は予告なく変更になることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。



・・・ 刊行物のお知らせ ・・・

■ 洋学研究誌『一滴』第28号を刊行します

目次

- 箕作元八の見たフランス革命 … 長井伸仁
- 平成31 / 令和元年度企画展報告
生誕250年記念 杉田玄白門人 小林令助
箕作家の歴史研究 — 西洋史はどう伝わったか —
武雄×津山交流展示
日本を動かす！ — 武雄の蘭学 —
津山藩の英学事始
- 17世紀における阿蘭陀通詞出身医師の医学思想
— 西流外科研究の成果と課題 — … 近都兼司
- 1644年に江戸から長崎に戻った西吉兵衛蘇安
1644年8月1日にカストリクム号が長崎に航路する
以前を中心として … 土井康弘

3月刊行 全94頁 500円

ご利用案内

- 開館時間 / 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 月曜日 (祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始 (12月29日~1月3日)

入館料 /

一般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※ () 内は30名以上の団体料金です。
※ 小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



- 交通のご案内
- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分